

公共交通を自転車、徒歩で繋ぎ、面白いまちを

室伏政策研究室 代表
政策コンサルタント

室伏謙一さん
Kenichi Murofushi



与野党議員から政策相談

総務省や民間シンクタンク、衆院議員政策担当秘書の経験と実績から、永田町や霞が関、民間に独自のパイプを持ち、若手や中堅の国会議員、地方議員らから目置かれる。「国会議員の場合ですと、野党であれば委員会等での質問づくりの支援、与党であれば地元選挙区の活性化の相談等が多いですね」。

専門分野は政治・政策分析のほか、規

静岡市にゆかりがあり、東京を拠点に内外で活躍する皆様に、東京から見た静岡市の良さと可能性、まちづくりの方向について、ご提案いただきます。

制改革、地方創生、官民連携、まちづくり政策など幅広い。最近では、政府の規制改革推進会議にある業界団体の政策顧問として出席し、意見を述べた。ネットを中心にメディア活動も行っている。

「まちづくりは歴史的経緯や地理的特性を無視して考えるべきでない」という考え方の持ち主。支援した東京・晴海のまちづくりなどでも、その地域の歴史的背景を踏まえたまちづくり政策を立案した。

経歴

静岡市葵区生まれ。静岡聖光学院高校卒業。国際基督教大学教養学部卒業。慶應義塾大学大学院法学研究科修了。1998年、総務庁（現総務省）入省、三井物産戦略研究所、デロイトトーマツコンサルティング、渡辺喜美衆院議員政策担当秘書などを経て、独立。現在に至る。44歳。フジテレビ報道番組「あしたのコンパス」コメンテーターなどTV出演のほか、講演、執筆活動にも精力的に取り組む。著書に「仮面の改革派・渡辺喜美」（講談社）。
<http://seisaku-lab.com/>

「都市は生活の場」

「海外を含め、そのまち（都市）に移り住んでくる人の多くは食住、生活環境の良さからなんです。例えば、車を使わなくても、整備された公共交通で移動できるという生活の場としての魅力を感じて移ってきているんですね」と指摘。

「しかもこれはクリエイティブ人材や高度人材と呼ばれる人たちの考え方で、魅力的なまちにはそうした人材が集まり、彼らを担い手に勝手に面白いことが始まります。新たなたまり場としてのカフェもできるでしょう。そうしたことが産業の発展や雇用機会の創出につながり、まちがどんどん面白い形で発展していきます」。

また、「とにかく新しいものを、新しい科学技術をとという話ではなく、静岡市の中小企業さんが持っている技術や職人のわざを引き伸ばして付加価値を上げていくことを考えるべきでしょう。それにはクリエイティブ人材、面白い人材が欠かせません」。

室伏さんは言う。「そのためにも、生活のしやすさ、それから公共交通を自転車や徒歩でシームレスにつないだ交通体系の整備が重要になるのです。すべての方々に優しい公共交通は世界の潮流ですが、日本は遅れています。静岡市が先陣を切ってほしいですね」。

（文・写真…長田義明）